

エリアコーディネーターとの協働を意識した 自らの実践活動

中学校のコーディネーターとの連携

・女子生徒の相談
知的支援学級在籍
校内を走り回る 好きな男性教諭に抱きつく 等の行動あり
家庭環境も複雑 家庭での養育にも難しさがある
母親は一般の高校を希望
関係者でのケース会議も持たれている

・具体的な取り組みの流れ
①情報共有 ②授業見学 ③学級担任、コーディネーターとの面談



実践の成果と課題

- ①授業見学
先生の取り組みによって個別学習は50分座っていただけることもある →その方法を周知
- ②学級担任との面談
通常学級の生徒と同じような参加状態にしなければ →十分にできている部分を伝えた
- ③コーディネーターとの面談
生徒にどう伝えたら分かってもらえるか、起こった行動をどう抑えたいのか
→ 生徒の行動からその子の言葉にできない思いを読み取っていく方法もある

課題

圧倒的多数の通常学級の生徒の中で、個に応じた対応をとることの難しさ。
中学校内の連携の難しさ
支援学校と地域の学校の物理的な距離からくる心の距離

実践の中で自分が学んだと思うこと

- ①「特別支援教育」は「特別」なこと????
- ②「普通の先生」と「専門家」の間で
- ③顔の見える関係の大切さ



実践活動の今後に向けて

何を求められているのか？



どこまで応えればよいのか？

背景の読み解き
(環境、障害特性、考え方など)
具体的指導法
本人の強みの発掘
チームとしての動き
リソースの発掘 など

地域支援作りへの提案

- ・地域で核となるエリアコーディネーターの育成、連携
- ・「チーム」としての活動を
- ・答えがあるわけではなく…

